

つたのは通信

特定非営利活動法人 としま遺跡調査会

豊島区の文化財展 2010

「江戸時代の巣鴨をあるく」の舞台裏



18時18分 誰もいない区役所ロビーで設営中。(右は今年のパンフレット)



毎年恒例となった区役所ロビーでの豊島区の文化財展、2010年は「江戸時代の巣鴨をあるく」と題し、9月1日から14日まで開催しました。わずか2週間という展示期間でしたが、みなさまから好評をいただきながら、無事終了しました。展示会場に足を運んでくださった方々、ありがとうございました。「つたのは通信」では、展示では見られない、企画から設営までの舞台裏の様子をお伝えしましょう。

最初の企画会議は6月末。例年より2か月も早い開催と聞き、あわてて過去の展示や、最新の発掘成果を確認したりしながら、今年の展示テーマを考えていきます。そして、江戸時代の巣鴨地域と決まったのが7月中旬。中山道(現地蔵通り)の左右にある遺跡を紹介しながら歩く、という案を採用したまでは順調でした。問題は展示タイトルです。出てくるのは、「ぶらさがモ」「巣鴨ウォーカー」など、どこかで聞いたようなものばかり。さんざん頭

を悩ました挙句(?)、「江戸時代の巢鴨をあるく」というタイトルに落ち着きました。巢鴨は中山道を挟んで武家屋敷(旗本・大名屋敷)と町家が向かい合う特徴的な地域です。武家地は時代によって大名・旗本が入替わり、町人地ではそれぞれ多種多様な職業の人々が暮らしていたことが発掘調査や絵図・文献史料によって徐々に解明されてきています。そこでこれまで実施された発掘調査から、武士と町人という身分差や、町に住む人々の職種の違いを比べてみようというのが今回の趣旨です。

8月はパンフレット作りや展示キャプション(解説板)、写真のパネルの作成に追われました。大きな博物館などでは業者にパネル作成を委託しますが、調査会は全て手作り。今回の展示は、これまでのなかでパネル数が最も多く、職員が総動員して作り上げた力作でした。

8月31日17時。区役所が閉まると同時に展示の設営開始です。まずは、パネル類を貼り付ける壁体の搬入と組み立てです。壁体ができたら、パネル貼付と遺物設置の2班に別れて一斉に作業に取り掛かります。壁体は9枚。それぞれ事前にレイアウトした通りに、武家地や町人地などにわけて、写真や文章パネルを貼り付けます。ガラスケースには、出土遺物を丁寧に並べていきます。

パネル設置の際に最も気をつかうのが、遺物やキャプションの見やすさです。身長180cmの私は、つつい自分の目線と並べてしまうのですが、ほとんどの人には見にくい(見えない?)ようです。頃合い(身長約150cm)の職員を呼び、その人の目線に合わせて調整することになりましたが、私からすると、30cmも目線を下げて作業するのは一苦労でした。

展示する遺物にも細心の注意を払います。なかには欠けていたりして不安定な形状をしているものが多数あるからです。これらはとても大切な「文化財」です。そのため、展示期間中に倒れて破損しないように、さまざまな道具や方法を駆使しました。こういう仕事も私たちの腕の見せ所であり、自然と熱が入ります。20時も過ぎた頃、ほぼ設営が完了しました。最後のチェックをした後のみんなの顔は、とても満足そうでした。自分たちの展示を眺めながら、来年はこうしようか、という話し声も聞こえてきます。

展示する遺物にも細心の注意を払います。なかには欠けていたりして不安定な形状をしているものが多数あるからです。これらはとても大切な「文化財」です。そのため、展示期間中に倒れて破損しないように、さまざまな道具や方法を駆使しました。こういう仕事も私たちの腕の見せ所であり、自然と熱が入ります。20時も過ぎた頃、ほぼ設営が完了しました。最後のチェックをした後のみんなの顔は、とても満足そうでした。自分たちの展示を眺めながら、来年はこうしようか、という話し声も聞こえてきます。

巢鴨遺跡に焦点を当てた「江戸時代の巢鴨をあるく」はいかがだったでしょうか。展示をご覧になって、江戸時代の巢鴨の雰囲気や少しだけでも感じとっていただければ、嬉しい限りです。現在は「おばあちゃん原宿」として全国にその名を轟かせる巢鴨という街。展示を終えて、そんな活気あふれる巢鴨の原型は、すでに江戸時代の頃にあったのだらうと思えて仕方がありません。

さて、この展示は巢鴨遺跡で実施された発掘調査成果のほんの一部分です。今後も機会を設けて、巢鴨の遺跡をご紹介していきたいと考えています。

(高木翼郎)



細い釘でパネルの四隅を留めていきます



並べるだけでなく、遺物とキャプションの微妙な位置にも気を配ります



遺物を傷つけないよう、慎重に透明のテグスで固定していきます



設営終了! 上々の出来栄です

クロス駒込四丁目地区で遺跡見学会を開催しました

記録的な猛暑が続いた2010年6月～8月の間、駒込四丁目に所在する染井遺跡（クロス駒込四丁目地区）では発掘調査が進められていました。現場では、遺跡見学会の日時を公示する以前から、通りすがりの方から「遺跡見学会はやるの?」といった声を頂いており、区民の皆さんの関心の高さを改めて感じました。

クロス駒込四丁目地区は、江戸時代の武家屋敷地、中でも津藩藤堂家下屋敷および抱屋敷に推定される範囲に位置しています。今回の調査では、この武家屋敷地に関わる堀や地下室、井戸などといった遺構が発見されました。これらの遺構からは、おびただしい数の陶磁器・土器、あるいは金属製品や食物残滓（食べかす。主に貝殻や骨）などが出土しました。17世紀後半～18世紀初頭頃と推定される、江戸時代でも比較的古い時期の遺物がまとまっていたのが特徴的です。



炎天下にもかかわらず、多くの方が訪れました



江戸時代の地面に立って説明を聞く見学者

遺跡見学会は8月7日（土曜日）に開催されました。まず午前中は、勤労福祉会館の考古学講座に参加されている方々を招いて、調査の進められている遺構や遺物についてお話ししました。午後は、予定通り2時に開場しましたが、最も暑い時間帯にも関わらず、午後4時の閉場までに60人前後の方々が来場されました。近隣にお住まいで以前から気になっていたという方、通りすがりに立ち寄ってみたという方、建築予定の建物に入居される方など、来訪の理由は様々ですが、目の当たりにした遺構や遺物から、人それぞれに江戸時代の様子を思い描いていたようです。こちらの拙い説明にも熱心に聞き入って下さる方もおり、「よく勉強してるねえ」とお褒めの言葉を頂戴しましたが、一夜づけの付け焼刃なのは内緒です（!?!）。親子連れの方の中には、小学生と思しき息子さんに「自由研究に書いたら?」などと薦める姿も見られました。自分の印象ですが、一般的にこうした遺跡見学会では、来場者に占める若い方の割合は総じて少ないものですが、今回は夏休みと重複する時期であったせいも、お子さんをはじめ、若い方の姿が目立ったように思います。もし、今回の見学会を機に、地域の歴史に興味をもっていただけたら、こんな嬉しいことはありません。

猛暑の中わざわざお越し下さった皆様、今後ともご声援のほどよろしくお願い致します。興味をもっていただくこと自体が、調査に携わる我々にとって最大の励みとなります。（宮川和也）

『巣鴨町』が刊行されました



2008年に調査を行なった巣鴨遺跡庚申塚マンション地区が『巣鴨町』として、今夏に刊行されました。現在の庚申塚の東側、セザール巣鴨地区（『巣鴨町』）の斜め向かいに位置します。江戸時代の後半から土地利用の痕跡が見られ、大型土坑や胞衣皿などのほか、巣鴨地域における戦災被害が顕著に残り、防空壕や融けたガラス瓶なども出土しています。梶原勝氏による「特許表札」についての興味深い考察も掲載しています。

『巣鴨町』 A4 130p 533g 価格：900円（賛助会員価格：720円）

詳しい頒布方法につきましては、本会までお問い合わせ下さい。

遺跡を掘って、調べて...

今年の夏は暑かった...。肌がジリジリと焼け、呼吸をすると生暖かい空気が肺に入ってくる。そんな、過酷な環境の中、発掘調査はおこなわれていた。でも、暑さに負けている暇はない。遺跡の調査をせねば。私は、今、発掘調査の担当者なのだ。

そう、私は現在、調査員補佐という肩書で働いている。NPO法人としま遺跡調査会の前身である「豊島区遺跡調査会」に入ってからこれ7年となる。瓦を専門分野として、最近は室内作業では発掘調査報告書の作成、発掘調査では調査員の指導のものと調査担当者など、大役を任せて貰えるようになってきた。

「発掘調査報告書の作成」とは、発見された遺構や遺物を分析し、その場所でどのような遺跡が発見されたのかを報告書としてまとめる仕事である。「発掘調査の担当者」は、検出された遺構の状況を確認し、調査計画を立てて指揮・監督する仕事である。この他にも、調査上の安全の考慮（深く掘ったり、重機が動いていたりで発掘調査は危険が一杯）や特に住宅街の中での調査では、近隣住民のみなさんへの配慮（道路の土汚れ、騒音）など、遺跡以外へも神経を使う仕事でもある。

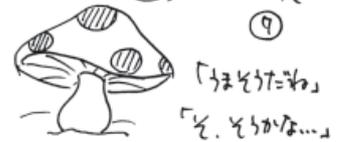
「NPO」は遺跡を発掘・報告するだけではなく、区民のみなさんと遺跡とのより大きな懸け橋となることにこそ存在意義がある。毎年、豊島区役所で開催される『豊島区の文化財』展や区民講座のほかにも、今後、「NPO」が区内外の人たちに向けて遺跡を紹介する為にすべき活動（より地域に密着した展示や講座、学校への訪問授業など）はまだまだあるように思う。そのためには、より多くの方々にNPOの活動に関心を持ってもらえるよう、私自身、多くのことを勉強し、学ばねばと痛感している。



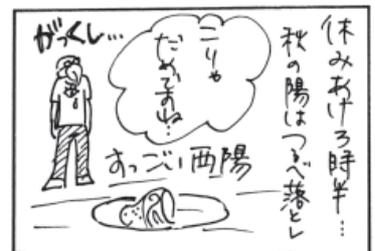
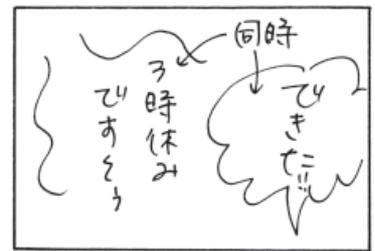
写真・図面と、にらめっこ中

発掘調査の際の指示の下手際など、まだまだ失敗してしまうことも多く、学ぶべきことが多いが、文字通り埋もれている歴史を掘り出すという仕事は、やりがいのある仕事だから、よりいっそう精進していきたいと思う。（山崎吉弘）

かばん(ぼん) ① 調査員



今日中に写真撮影して発掘めまもり...



読書の秋、芸術の秋、でもやっぱり①調査員は食欲の秋!! おやつ誘惑に負けるのは仕方の無いことなのか...。天高く②肥ゆる秋の空~(合掌)。

【お詫びと訂正】

7月22日発行の第10号は、「第11号」の誤りでした。ここにお詫び申し上げ、訂正いたします。 [担当:③]

編集・発行



特定非営利活動法人
としま遺跡調査会

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨3-8-9 巣鴨複合施設201号室

Tel・Fax 03-3915-6962

E-mail tics389@a.toshima.ne.jp

ホームページアドレス: <http://www.toshima-iseki.org/>

「つたのは通信」の由来：藁は大きな樹ではありませんが、生命力が非常に強い植物です。この藁の葉が周囲の樹木や建物につたい茂るように、多くの人に遺跡の楽しさ、大切さを知ってもらいたいとの願いを込めて会報の名としました。また、染井遺跡を代表する大名屋敷である津藩藤堂家の家紋としても、馴染み深い植物です。

題字：湯澤和子

ロゴデザイン：石原幸

マンガ：④